

平成 25 年度
公益財団法人つくば科学万博記念財団
事業報告書

自 平成 25 年 4 月 1 日
至 平成 26 年 3 月 31 日



公益財団法人つくば科学万博記念財団（以下「財団」という。）は、国際科学技術博覧会の意義と成果を継承し、我が国の科学技術の振興に寄与するため国際科学技術博覧会記念基金を活用し各種事業を行っている。

平成 25 年度は、年度事業計画に基づきつくばエキスポセンター（以下「センター」という。）の運営をはじめ、科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流並びに産学官の研究機関の連携促進に関する事業等を実施した。

財団の財務は、円安傾向の継続により外国債券の利息収入が増えたことに加え、債券の売却益を得たことにより基金運用収益が増加するなど経常収益は予算を約 14%上回った。一方、経常費用は経費の節約等に努め予算をわずかに上回るにとどまり、当期の経常増減額はマイナスからプラスに転じ予算を大きく上回った。また、平成 26 年 4 月 1 日から消費税率が 3%上がることに向けて入館料改定の検討など必要な準備を行った。

平成 25 年度に実施した事業は以下のとおりである。

I. 事業の実施状況

1. つくばエキスポセンターの運営【公益 1・収益 1】

学校、科学館、地域の自治体、研究機関、大学等との連携強化に努めながら展示、催事、プラネタリウム等各事業を実施し、青少年を中心に科学技術の普及啓発に資する多面的な運営を行った。

1-1. 展示【公益 1】

(1) 1階展示場・エントランスホール

「おもしろサイエンスゾーン」「エネルギーゾーン」を中心に科学の原理やテクノロジーに関する体験型展示物等を引き続き展示した。

- ①「おもしろサイエンスゾーン」では筑波大学と連携して「3次元 X 線 CT データの立体視」を追加、「錯視・錯覚コーナー」では立体的な錯視作品の展示を新規に追加した。
- ②「エネルギーゾーン」では、「タイムカプセル」を始め放射線に関する展示を日本原子力研究開発機構の協力を得て全面的に改装した。
- ③「サイエンスシティつくば再発見」では、筑波研究学園都市の 5 機関等（独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 花き研究所、独立行政法人理化学研究所 バイオリソースセンター、独立行政法人建築研究所、つくば国際戦略総合特区、気象庁 地磁気観測所）の研究活動を紹介する展示を行った。

また、これまでに紹介してきた研究機関等の展示内容を冊子にまとめ閲覧できるように整備した。

④その他

- a. 入館者の利便性と対応などの業務効率向上の観点から、インフォメーション・カウンター周りのリニューアルを行った。
- b. 平成 23 年度から引き続き、センター敷地内の放射線量を測定し結果を掲示した。
- c. デジタルプラネタリウムのリニューアル（平成 24 年 12 月実施）により使用しなくなったプロジェクターを活用し、「本日の夜空」を紹介する映像展示をプラネタリウムホール改札前に設置した。
また、プラネタリウムホールホワイエ付近にこれまでに当館で制作・上映したオリジナル番組の紹介パネルを展示した。

（2）2 階展示場

「夢への挑戦 - のぞいてみよう科学がひらく未来 -」「サイエンスギャラリー」等において日本国内を中心に行われている研究開発や先端科学技術などを紹介する展示を行った。

- ①「生命への挑戦ゾーン」に「iPS 細胞」（実物）を観察できる顕微鏡および映像の展示を新規追加した。
- ②「環境への挑戦ゾーン」に「地球をみつめる目」の追加展示として「デジタル地球儀システム」「『いぶき（GOSAT）』の最新映像（4～6 時間前の衛星からの準リアルタイム映像）」および「観測データ」に関する展示を追加した。
- ③「南極中継」では、南極の星空とオーロラ映像を子画面で表示し、オーロラの発生や南極観測船「しらせ」到着時の状況をリアルタイムで上映した。
- ④イベントスペース「創造の森“ワンダーラボ”」では、サイエンスショーやミーツ・ザ・サイエンス、エキスポ探検隊、ロケット打ち上げ中継等のイベント実施に加え、国際宇宙ステーションからの地球のリアルタイム映像を受信して「ISS アースビュー」として試行的に上映を行った。
- ⑤サイエンスギャラリーでは、「切手で見える世界の科学技術の発展」「科学技術の『美』パネル展」を展示した。特に「科学技術の『美』パネル展」では、平成 25 年作品で入館者の関心が高かった「風神・雷神」のパネルを追加した。

（3）屋外展示場

- ①「H-II ロケット実物大模型」「ゆるぎ石」「巨大音叉」「はやぶさ方探アンテナ」等を引き続き展示した。また、「巨大音叉」は共鳴現象をより体感しやすいように内部構造を改良した。

屋外ひろばを利用してサイエンスショー「シャボン玉」などのイベントを実施した。

②わが国の科学技術の発展を支えた開発機器の実物展示に大学共同利用機関法人高エネルギー加速器研究機構と連携して新たにKEKB加速器電磁石を追加した。

また、平成24年度から引き続き南極OB会茨城支部と連携して「南極専用小型雪上車」の修復作業を行った。

(4) その他

センターの壁面・床の一部に使用されている大理石および大理石に含まれる化石の情報を独立行政法人産業技術総合研究所 地質調査総合センターと共同でまとめ、同センターの研究資料集として登録・公開に協力するとともに、つくばエキスポセンターにおいても公開の準備を行った。

1-2. プラネタリウム【公益1】

プラネタリウム、全天周デジタル投影システムを活用し、センター独自の「オリジナル番組」および「星空生解説」を四半期ごとに企画・制作し上映した。「こども番組」を半期毎に入れ替え、「特別番組」を1年間上映した。

特に、ゴールデンウィークの4日間およびお盆期間を含む5日間は、回数を増やして(7回)上映した。

また、過去に上映したオリジナル番組を平成25年4月に3番組および平成26年3月に4番組を再上映した。

オリジナル番組のうち「超新星爆発」など3作品が他の博物館・科学館4館で上映されるなど、配給を通して他館での星空・天文の普及活動に貢献した。

このほか、オリジナル番組の監修者、協力者を講師とする関連講演会を3回開催した。

1-3. 催事【公益1】

(1) 定例催事

①土・日・祝日に毎月テーマを変えて「サイエンスショー」および「科学教室」を開催した。

②「天体観望会」および展示解説ツアー「エキスポ探険隊」を定期的で開催した。

(2) 特別催事

①春休みや夏休みなど入館者の多い時期に合わせて特別展「エジソンからは

じまる音と電気の不思議な関係」「理科おもちゃ大集合！」「文具展～身近な道具にかくれた技術～」を開催した。

また、研究者と入館者の交流を目的に講演会やワークショップを行う「ミーツ・ザ・サイエンス」を4回開催した。

- ②財団が主催する「第15回全国ジュニア発明展」の入選作品展示会を行った。
- ③「宇宙の日」(9月12日)の記念行事として行われる「全国小・中学生作文絵画コンテスト」を茨城県の科学館として開催に協力し、優秀な作品の児童・生徒を表彰した。また、優秀作品の展示会を開催した。
- ④茨城県県南教育事務所などが主催する第57回「茨城県児童生徒科学研究作品展・発明工夫展県南地区展」の展示会開催に協力したほか、優秀な作品の児童・生徒に対し館長賞を授与した。
- ⑤科学技術週間中に「第54回科学技術映像祭」入選作品の上映および「一家に1枚」科学のポスター展を行った。また、春休み期間に「第11回全国こども科学映像祭」「第12回全国こども科学映像祭」の入選作品を上映した。

1-4. 筑波研究学園都市50周年記念事業【公益1】

研究学園都市が筑波に建設されることが閣議了解されてから50周年を迎えたことを記念し、自治体、筑波研究学園都市交流協議会等と連携し事業を実施した。

(1) 作文絵画コンテスト「想像してみよう 50年後のつくば」

全国の小・中学生を対象に作文絵画コンテスト「想像してみよう 50年後のつくば」を実施した。優秀な作品の児童・生徒に対してはセンターのプラネタリウムホールで表彰式を開催し、科学技術政策担当大臣賞、文部科学大臣賞および財団理事長賞等を授与し表彰した。

作品集(冊子およびCD-ROM)を制作し関係機関、関係者に配布した。

また、一次審査を通過した作品(作文148点、絵画114点)を展示した。

(2) 「筑波研究学園都市のあゆみ」展示

筑波研究学園都市の50年のあゆみを年表、写真、映像で紹介した。

1-5. ボランティアインストラクター【公益1】

研究機関及び教育機関等での経験・知識・専門性等を生かしてセンターの事業に参加する有志のボランティアを「ボランティアインストラクター」として受け入れ、展示解説、なんでも科学相談コーナー、科学教室、アウトリーチ活動等において協力を得た。

1-6. 研修等への協力【公益1】

つくば市教育研究会理科教育研究部・理科主任研修会の開催に協力した。
小・中学校（6校12名）の職場体験の実施に協力した。
筑波大学と協定を締結し、学芸員養成の博物館実習（1名）を受け入れた。

1-7. 入館者

平成25年度の入館者数は、昨年度比7,600人減の174,712人であった。この内プラネタリウム番組の入館者は、昨年度比約2,000人増の114,510人（全体の約66%）であった。

平成26年3月末時点の年間パスポート会員数は、昨年度比約140人減の2,911人であった。

1-8. 入館者誘致【公益1】

センターのホームページの活用をはじめ、茨城県県南地域を中心に隣接する県および東京都の自治体、教育機関、観光関係事業者等151機関にセンターの情報を発信した。このほか、各種媒体に広告掲載を行った。

つくばサイエンスツアーや「つくばちびっこ博士」など自治体等の活動と連携・協力しセンターの利用促進を図ったほか、観光キャンペーン等でセンターの活動紹介を行った。

また、年間パスポート会員のうち、情報配信を希望した会員（平成26年3月末時点682人）に対し、センターのイベント情報を毎月電子メールで配信した。

1-9. ミュージアムショップ、駐車場の運営並びに施設の利用促進【収益1】

(1) ミュージアムショップ、駐車場の運営

入館者の科学技術に対する理解の促進に資するため、科学館に相応しい品の充実に努めながらミュージアムショップの運営を行った。

また、入館者の利用に供するため駐車場を平日は無料で、土・日・祝日及び春・夏休み等の繁忙期は有料で運営した。

(2) 施設の利用促進

センターの利用促進及びサービスの充実を目的に引き続き外部事業者のレストランの運営、SL等イベントの実施を委託した。

また、センターの運営に支障のない範囲で休憩室等を有料で貸与した。

1-10. 協議会等活動への参加・協力【公益1】

「全国科学館連携協議会」「全国科学博物館協議会」「日本プラネタリウム協

議会」「茨城県次世代エネルギーパーク推進協議会」「つくばサイエンスツアー実行委員会」の活動に参加・協力した。

1-1-1. 施設・設備の修繕【公益1】

設備の定期点検において経年劣化が認められた機器等の改修を行った。

2. 国際科学技術博覧会記念基金事業（科学技術の普及啓発、人材育成、国際交流および科学技術に関する産業界、大学、公的研究機関の連携促進に関する事業）【公益2・収益2】

2-1. 国際交流推進事業【公益2】

青少年を対象とする国際交流推進活動に対する支援を予定していたが、申請がなかったため実施しなかった。

筑波研究学園都市で開催される国際シンポジウムに対する支援として、「第21回国際木材機械加工セミナー」他1件に対し助成を行った。

2-2. 産・学・官研究者等交流推進事業【公益2】

筑波研究学園都市交流協議会が実施する「筑協FMラジオ番組放送事業」に対し助成を行った。

一般財団法人茨城県科学技術振興財団 つくばサイエンス・アカデミーが主催する「サイエンス・フロンティアつくば(SFT)2013」「SATテクノロジー・ショーケース in つくば2014」を共催し、「SATフォーラム2013」に対する後援を行った。

2-3. 普及啓発・人材育成事業【公益2】

(1) 科学技術映像

公益財団法人日本科学技術振興財団等との共催で「第55回科学技術映像祭」を、一般財団法人日本視聴覚教育協会等との共催で「第12回全国こども科学映像祭」を実施した。

(2) 科学館連携事業

①全国科学館連携協議会が実施する「平成25年度海外科学館視察研修」に対し助成を行った。

②ぐんまこどもの国児童会館他4館でエネルギー展示物、公益社団法人日本アイソトープ協会武見記念館他5館および文部科学省で「科学技術の『美』パネル展」CD、郡山市ふれあい科学館他3館で「切手で見える世界の科学技術の発展」CDの巡回展を実施した。

(3) 青少年科学啓発

- ①全国の小中学生を対象に「第15回全国ジュニア発明展」を実施し、優秀な作品の児童・生徒、団体に対し財団理事長賞等を授与し表彰した。
- ②科学技術週間における研究施設一般公開に対する支援を行った。
- ③第9回全国物理コンテスト「物理チャレンジ2013」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。
- ④第6回日本地学オリンピック「ぐらんぷり地球にわくわく」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑤「第14回全国中学生創造ものづくり教育フェア」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与し、受賞作品をセンターで展示した。
- ⑥「第13回高校生ものづくりコンテスト全国大会」(四国)を共催した。
- ⑦「第3回科学の甲子園茨城県大会」を共催し、最優秀チームに対し財団理事長杯を授与し、当該チームの生徒および成績上位校に対し記念品を贈呈した。
- ⑧「マイクロマウス2013(第34回全日本マイクロマウス大会)」を共催し、優秀な参加者に対し財団理事長賞を授与した。
- ⑨「つくばチャレンジ2013」を共催した。

(4) 参加体験型科学教育活動

幼稚園、学校、公民館等に対して実験機器貸出、科学出前教室、サイエンスショー等のアウトリーチ活動を実施した。実施件数は106件、受講者数は12,518人であった。

2-4. つくばサイエンスニュース【公益2】

筑波研究学園都市にある研究機関や大学等がプレス発表した科学技術研究活動の成果をウェブサイト上で分かり易く伝える「つくばサイエンスニュース」(週刊)の編集・発行を行った。

コンテンツの充実を目的に記事のインデックス表示機能の追加、過去の発行記事をデジタルアーカイブ化して公開する等システム更新および改良を行った。

発行回数は51回、ページビュー数は95,273PV、1回当たりの平均ページビュー数は1,868PVであった。

2-5. 語学研修事業【収益2】

筑波研究学園都市の研究機関や大学等の研究者等を対象に文部科学省研究交流センターと共催で英語研修を実施した。参加者数は287名であった。

3. 科学技術関係団体等に関する事業【他1】

東京分室において、「科学技術団体連合」および「牧友会」の事務局業務を行った。

II. 公益財団法人の運営等に関する事項

1. 評議員会・理事会の開催

(1) 評議員会

(開催日)		議題
平成25年6月18日(火)	第5回評議員会 (定時)	決議事項 ・平成24年度決算報告書(案)について ・理事の退任及び選任(案)について 報告事項 ・平成24年度事業報告書について ・基金運用状況と見通しについて ・第5回通常理事会決議事項について
平成26年3月20日(木)	第6回評議員会 (臨時)	決議事項 ・理事及び監事の選任方法について(案) 報告事項 ・平成26年度事業計画書について ・平成26年度収支予算書、資金調達及び設備投資の見込みについて ・基金運用状況と見通しについて ・第8回理事会決議事項について

(2) 理事会

(開催日)		議題
平成25年6月7日(金)	第5回理事会 (通常)	決議事項 ・平成24年度事業報告書(案)について ・平成24年度決算報告書(案)について ・第5回定時評議員会の招集について 報告事項 ・基金運用状況と見通しについて ・職務執行状況報告
平成25年7月1日(月)	第6回理事会 (書面決議)	決議事項 ・専務理事の選定について
平成25年12月4日(水)	第7回理事会	報告事項

	(臨時)	・職務執行状況報告
平成 26 年 3 月 5 日(水)	第 8 回理事会 (通常)	決議事項 <ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年度事業計画書(案)について ・平成 26 年度収支予算書(案)、資金調達及び設備投資の見込み(案)について ・理事及び監事の選任方法について(案) ・第 6 回臨時評議員会の招集について 報告事項 <ul style="list-style-type: none"> ・職務執行状況報告 ・基金運用状況と見通しについて

2. 資産運用

(1) 運用

財団事業の安定的かつ継続的な進展に資することを目的に資産の運用を行った。

為替レートの円安傾向が継続したことおよび債券の売却収入を得たことにより予算を上回る運用収入を得た。

(2) 基金運用委員会の開催

(開催日)		議題
平成 25 年 4 月 10 日(水)	第 3 回基金運用委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・早期償還した債券の再投資について ・購入後格付が下がった債券の発行体の財務状況について
平成 26 年 1 月 23 日(木)	第 4 回基金運用委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・基金運用状況と見通しについて ・早期償還した債券の再投資について

3. 情報公開・広報

(1) 情報公開

「平成 24 年度事業報告書及び計算書類等」および「平成 25 年度事業計画書及び収支予算書等」を財団ウェブサイトで公開した。

(2) 広報

ウェブサイトを活用して各種事業およびセンターの活動に関する情報の発信を行った。財団ホームページのページビュー数は、35,445PV、センターホームページのページビュー数は、1,421,530PV であった。

財団の事業活動について筑波研究学園都市記者会をはじめ報道関係機関等

に資料配布を行った。センターのプラネタリウムや特別展等の活動については試写会・内覧会を開催して情報発信の強化を図った。取材等の対応件数は221件であった。

4. 業務執行体制

公益財団法人の代表理事として理事長および副理事長、業務執行理事として専務理事を置き、事務局に企画調整室、総務部（資産運用室含む）、運営業務部および普及事業部を置き業務を行った。

5. 職員の資質向上

「全国科学館連携協議会海外科学館視察研修（アメリカ合衆国ハワイ州）」「全国プラネタリウム大会・西東京2013」「第4回全国理工系学芸員展示研究大会」「ジオパーク関東地区大会」「全国科学館連携協議会国内研修会」「スカイマックスDSシリーズ合同研修会」に職員を参加させて知識・技能の習得等職員の資質向上を図った。

6. その他

平成24年度に引き続きセンターの入館者および業務に支障のない範囲で節電を実行した。

法令で実施が義務付けられている消防訓練を消防計画に基づき7月および3月に行った。